

あいさつ

彭 家声
大江平和 訳

尊敬する創価大学副学長・馬場善久教授、

尊敬する東洋哲学研究所所長・川田洋一博士、

尊敬する中国文化大学理事長・張鏡湖教授、

尊敬する広東省肇慶学院院长・鄭邦洪教授、

尊敬する林健忠曉陽慈善基金会会長・林健忠先生、

尊敬する湖南師範大学文学学院院长・譚桂林教授、

ご在席の皆様方。

このたび、北京が一年のうちで最も美しい金秋の季節に、「二十一世紀 東洋思想の展望」国際学術シンポ

ジウムを開催する運びとなりました。私は、北京大学日本研究センターを代表致しまして、皆様方に心からの歓迎の意を表したいと存じます。

人類社会は新たな世紀に足を踏み入れたばかりで、世界は依然として不安定な状況下におかれています。テロ事件、地域紛争、国際犯罪などが跡を絶たず、国際秩序の構築もまだ時間がかかるようです。二十世紀末、グローバル化の到来に沸いた歓声は、高まる民族主義的感情によってかき消され、南北間の矛盾や東西間の対立は人々を悩まし続けています。どのような価

値観、あるいは道德規範をもつてこの世界を整合させていけばいいのか、この問題は、各国の政治家や政府の重要課題であるばかりでなく、各国の学者の目の前に突きつけられた重要課題でもあります。これはまさに、今日、皆様方がこの場で探究していく課題でもあるのです。

著名な学術界の泰斗であられる季羨林先生は明確に次のように指摘されています。

「東西文化の最も基本的な相違点は、思考モデルの相違にある。すなわち、東洋は総合を重んじ、西洋は分析を主とする。西洋文化の中の『自然征服』の思想によってもたらされた深刻な弊害は、東洋文化の『天人合一』思想によって克服されなければならない。言い換えれば、『東洋文化だけが人類を救うことができるのである』と。」

しかし、東洋文化はいったいどのような、具体的で、内容のある役割を果たすことができるのでしょうか。この問題については、さらに立ち入って探究していく必要があります。

季先生のこの言葉は、我々のシンポジウムに対して深い意味のある問題、すなわち、東洋思想とは何か、その発展の行方とはどのようなものか、という問題を提起されたものといえるでしょう。

他方で、東洋の数多くの思想のなかで、池田大作思想は注目し値する一構成部分であります。

氏による個人の幸福生活をともなう価値観、民主主義の理想実現を目指す仏法民主主義、新社会主義を唱える人間性社会主義、世界の恒久平和を築く地球民族主義などの視点は、人類社会の発展の要請をある程度反映するものであり、その中の具体的な内容についても、このたびの学術シンポジウムで検討される重要な課題となりましょう。

私は十分な裏付けによって次のように確信しております。このたびの二日間にあたる学術シンポジウムは、先の問題について、より深い知識を得ることができ、より多くの共通認識をもつにいたるばかりでなく、学術の進歩をも推し進めることができるであろうことを。

最後に、シンポジウムの円満なる成功をお祈り申し

上げます。

ありがとうございました。

(ほう かせい／北京大学日本研究センター常務副主任)
(訳・おおえ へいわ／東洋哲学研究所委嘱研究員)